A 11 蚊類のアルボウイルス媒介能 (3) PCRを用いたデングウイルス媒介蚊2種の識別

○福田昌子¹・江下優樹¹・安西三郎¹・大塚 靖¹・青木千春¹・高岡宏行¹・高崎智彦²・
山田堅一郎²・内田幸憲³・倉根一郎² (¹大分医大、²国立感染研、³神戸検疫所)

Vector competence of mosquitoes to arboviruses (3) Simple differentiation of two dengue vector species by PCR

Fukuda M., Eshita Y., Anzai S., Otsuka Y., Aoki C., Takaoka H., Takasaki T., Yamada K.,
Uchida Y. and Kurane I.

我々は、昨年の衛動南日本支部大会で、デングウイルス媒介蚊のネッタイシマカ（タイ、グアテマラ、タンザニア産）とヒトスジシマカ（日本、タイ、アメリカ産）のITS2領域のPCR産物の大きさによって、両者の識別が可能であることを報告した。今回は、ヨーロッパ（アルバニア産）のヒトスジシマカを追加して、PCR産物およびITS2領域の塩基配列を、今まで得られた結果と比較検討した。その結果、アルバニア産ヒトスジシマカのPCR産物の大きさは、他地域のヒトスジシマカのそれと同じであった。したがって、PCR産物の大きさを比較することによって、世界に分布するヒトスジシマカとネッタイシマカを区別可能と思われる。なお、5地域由来のヒトスジシマカの塩基配列は、多くは相同配列であったが、一部にいくつかの変異が認められた。

A 12 川崎市における蚊科成虫の周年調査成績

佐藤英毅（川崎市衛生研究所）

Distribution and seasonal occurrence of mosquitoes in Kawasaki City

Sato Hideki

蚊媒介性輸入感染症が懸念されており、都市環境における蚊成虫の動態把握は重要と考えられる。ここでは、本市が日本脳炎媒介蚊対策の一環として 1956 年から調査してきた蚊科成虫捕獲結果を近年の成績を中心に報告する。捕獲蚊は *Culex pipiens pallens*, *C. tritaeniorhynchus*, *C. bitaeniorhynchus*, *C. orientalis*, *C. halifaxii*, *Anopheles sinensis*, *Aedes vexans nipponii*, *A. albopictus*, *Armigeress subalbatus* および *Tripteroidea bambusa* など、8 定点の合計で年間捕獲数は 400 個体程度である。全体の 80%以上を占める *C. pipiens* および全捕獲数は横這い傾向にあるが、種構成や捕獲時期に変化が認められる。ライトトラップに比較的に入りにくい *A. albopictus* は近年 2 番目に多い安定捕獲である。*A. sinensis* は捕獲されない年もでてきている。1957 年の記録以後捕獲されなかった *T. bambusa* が 1998 年から毎年捕れている。